

## 「人口減少問題を克服した姿」について

委員氏名	委員が思い描く「人口減少を克服した姿」
須田 紘 彬	<p>○賃金が低くとも、「ここにいられて幸せ」と感じられる幸福感を感じている</p> <p>○一人一人が「夢」を持ち、口に出しても笑われずに応援してもらえる</p> <p>○自分が決して特別ではなく、他者からの評価によらず、人の役に立てている実感がもてる</p> <p>※ 人口減による経済的な指標のみならず、個々人の集合体としての地域を目指す。集団としての幸せを求めるがゆえに個人が犠牲になってはならない。誰も置き去りにしないことを目指し、ダイバーシティとSDGsの観点の秋田県を目指す。</p>
能登 祐 子	<p>現在、我々は「人口減少」のために、新たな取り組みを始めたばかりで、成果は出ておりません。</p> <p>県内だけの対策ではなく、県内外を視野に活動を広げる必要があることを痛感しております。</p> <p>前回の専門部会でもお話したように、一番大切なのは「人」と「人」とが関わり多様性を持って繋がるのが重要と考えます。</p> <p>オンラインなどで情報発信をしながら、秋田の豊かな自然や食を体験してもらうことが大切であり、観光も体験型を拡大するべきだと思います。</p> <p>また、地域性も配慮し、地域が消失しない（若者との連携）環境をつくる努力をしたいと思います。</p>
加藤 未 希	<p>○Aターンする若者が増えること</p> <p>○子育てしやすい県ランキング上位に入っていること</p> <p>○不便を感じることなく生活できること</p>
竹内 健 二	<p>秋田県が「日本一こどもが育つ」ところになっていることです。</p> <p>豊かな自然環境を、経済的側面や環境保護的側面ではなく、豊かな教育資産であると捉えて、教育に自然環境を生かす戦略が必要と考えます。</p> <p>また、地域にたくさんいる「生きる知恵」を持った人材の発掘と、その人々を教育の場に引き込むことも大事だと思います。</p>

委員氏名	委員が思い描く「人口減少を克服した姿」
武 石 一 之	<p>○都会暮らしに慣れた人にも魅力を感じる街になっていること</p> <p>○都会へのアクセスの良さ（時間or金銭支援面等）と生活に不便を感じないコンパクトシティ</p> <p>※以下理由</p> <p>毎日首都圏の色々な世代と仕事を一緒にして感じる秋田へのイメージは、豊かな自然と美味しい食べ物やお酒、学力の高さだが、多くの人は秋田移住定住に魅力を感じていないため、都会のリモートワーカーや中高年富裕層が魅力を感じる街となることで人口の流れを作る。</p> <p>マネジメント層や富裕層の移住定住が進めば、新たなコミュニティが生まれ、ライフ面の充実のための地域貢献等も期待が出来ることから、生涯活躍ができる街への進化も可能と考える。</p> <p>そしてそこに新たな雇用が生まれ、賃金水準向上へと好循環が生まれ、若者も移住定住に魅力を感じるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田-仙台間2h、片道1万円への対策として 移住定住することに対するインセンティブ</li> <li>・都会暮らしの人は車離れが進んでいることに対する対策</li> </ul>
武 田 成 史	<p>○家族を作りたいと思う若者が増えること</p> <p>○県内企業の働き手不足が減少すること</p> <p>○一度県内を離れた若者が戻ってくること</p> <p>○事業承継が進み、30～40代の経営者が増えること</p>
照 井 昌 子	<p>○子どもから大人まですべての人が、自然環境豊かな地域に誇りと愛着を持ち、快適で健康に暮らしていること</p>
山 名 裕 子	<p>○就職を希望する人（例えば障害のある方、外国にルーツのある方、LGBTQの方など）が、差別や偏見なく働ける環境が整備されていること</p> <p>○自分が望む働き方（例えば正規雇用や時短勤務、テレワーク・リモートワーク、年次休暇や育児休暇など）が最大限、尊重されていること</p>